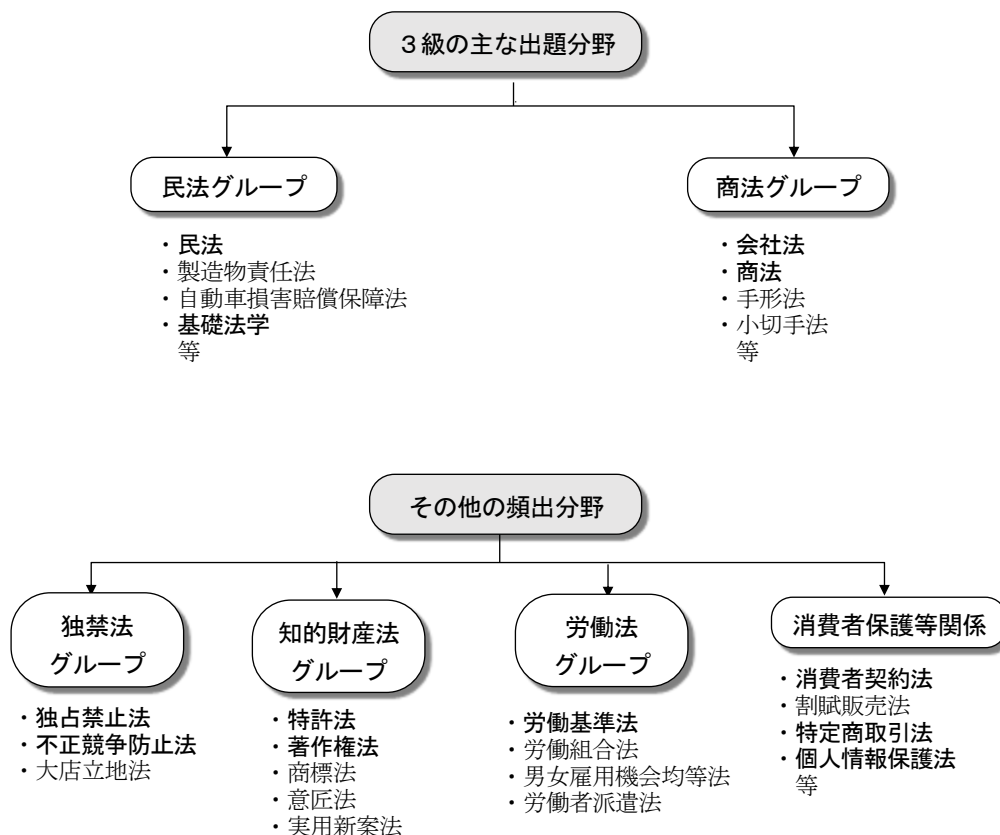


出題分野と受験対策について

1. 3級の出題分野

3級の出題分野については下記に示す頻出分野以外にも含めると非常に多岐に渡る。まともに全分野を真正面から学習したのでは短期間での一発合格は望めない。70点を獲得すれば合格できる試験であるから、頻出の出題分野を中心に学習していく必要がある。

出題傾向を分析した結果、出題の中心は**民法・商法・会社法**である。そして、特に、民法はきちんとマスターする必要がある。民法を学ぶと、法律の基本用語や各種の法律の基本となる考え方を学ぶことができるからである。



※出題される法律については、代表的なものに限定

先述のように、出題分野の中心は**民法・商法・会社法**であるが、これらの中でも3級では、**民法**の分野における財産法が出題の中心となっている。そのため、基本的法律用語を含め、この民法を押さえておくことが重要である。

2. 3級の傾向と対策

(1) 出題形式

3級の出題形式は若干複雑であるが、基本的には正誤問題である。

タイプ1＝一問一答型

→ 第1問・第4問・第8問(各10問×1点＝計30点)

タイプ2＝空欄補充・文章完成型

→ 第2問・第5問・第7問・第9問(5個の空欄に入る用語を15個の語群から選択し、文章を完成させる問題がそれぞれ2問出題される。空欄1つが各1点×5個の空欄＝5点がそれぞれ2問で10点、それが4つあるため、合計40点)

タイプ3＝四肢択一型

→ 第3問・第6問・第10問(それぞれア～オの5個の問題があり、それぞれが四肢択一の問題。各2点×5問が3つあるため、合計30点)

(2) 傾向

3級試験の合格率は、約60%～80%である。

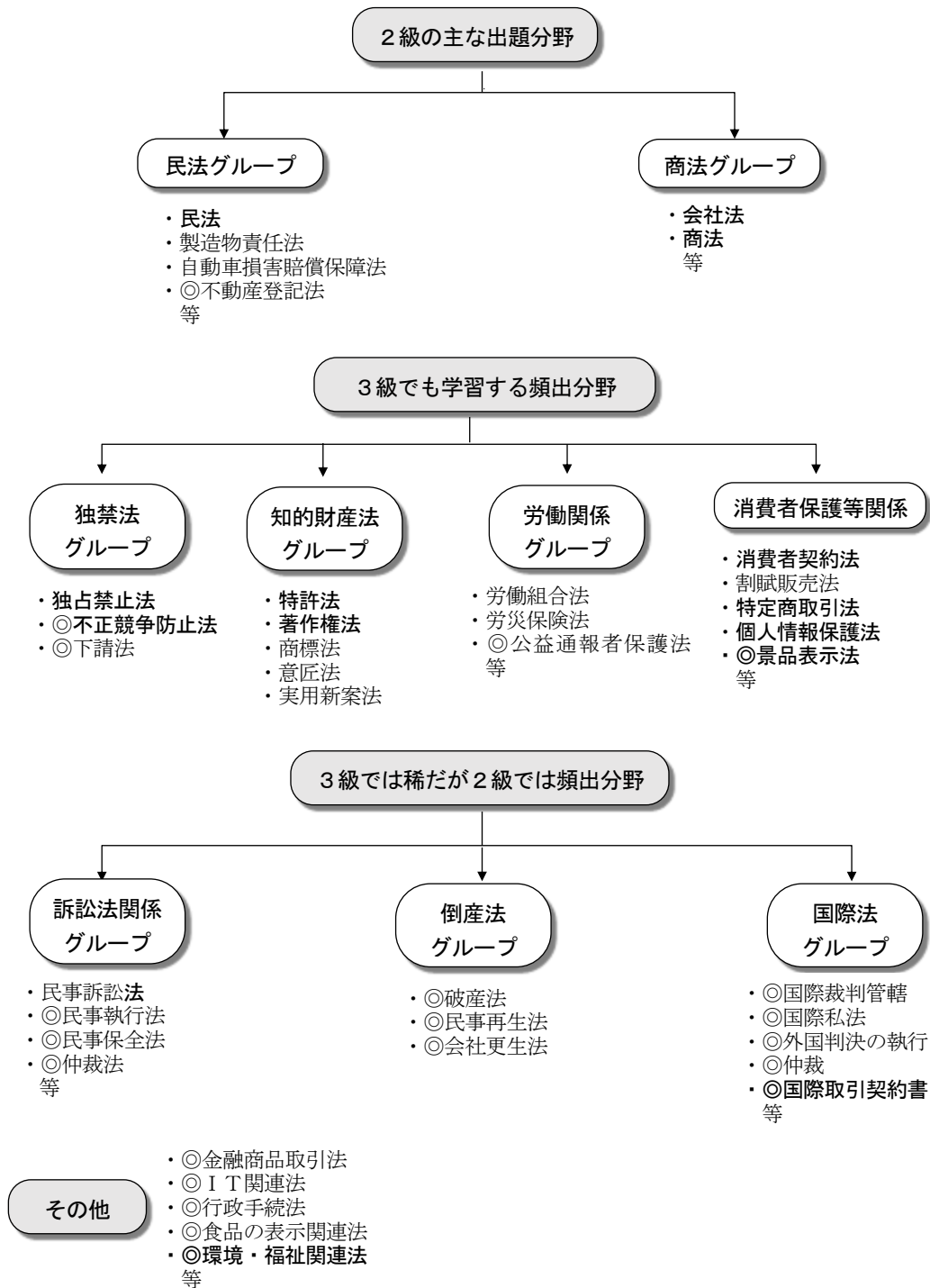
合格率が高かったときの要因としては、文章完成形型の問題や四肢択一の問題が過去に何度も出題のある分野からの出題であったことが考えられる。これに対して、合格率が低かったときの要因は、文章完成形型の問題で空欄に補充する語句として今までにない語句を入れさせる問題がいくつかあり、四肢択一の問題でも解答するのにこれまで以上に正確な知識が要求される問題もあったことなどが考えられる。

しかし、合格率に多少の幅はあるが、3級については、50%を大きく超える合格率という点では変わりはなく、難易度は安定していると評価できる。ただ、近時の傾向として、3級公式テキストに記載はあるものの、以前は2級本試験でしか問われなかった内容が3級本試験でも少しずつ問われてきているという傾向がある。

(3) 対策

1. 3級のみを受験の場合、**特定重要分野の知識の正確性を高める**ことである。
2. **民法・商法・会社法**で6割～7割出題されている傾向は続いているが、特別法の分野でも、毎回必ず出題される**知的財産権と消費者保護関連の法律、独占禁止法関連、労働法関連**については力を入れることである。
3. これまでの2級本試験でも30%程度は3級の知識で対応できる問題が出題されている。逆に、上記したように、近時の傾向として、以前は2級本試験でしか問われなかった内容が3級本試験でも少しずつ問われてきている。これらを考慮すると、3級知識の確実性を高めるという点から、**3級・2級同時受験(連続受験)**を視野に入れて学習することが推奨される。

3. 2級の出題分野



◎の部分は、もっぱら2級で新たに学習する部分。

4. 2級の傾向と対策

(1) 出題形式

2級の出題形式は単純である。**五肢択一問題**が40題出題される。

前半の20問の配点は1問あたり3点であり、後半の20問の配点は、1問あたり2点である。前半20問と後半20問とを比較すると、前半の方が、やや1問あたりの文章が長く、若干難易度が高いと思われる問題もあるが、大差はない。100点にするための調整と考えていいであろう。

(2) 傾向

1. 2級の試験では、3級で学習した知識がそのまま、あるいは形を変えて出題される問題もかなりある。ただ、注意しなければならないことは、3級で既に学習済みの分野であっても、もう一步踏み込んだ知識が問われるということである。すなわち、3級の知識を前提として、より細かな知識（実際のビジネスで本当に役立つ知識）が出題される。

また、3級では学習していない新に学習する法律も多くあり、出題分野についても、ある程度の偏りはあるにしても、3級と比較すると全範囲、万遍なく出題される傾向がある。

2. 2級試験の合格率は、30%台～約50%で推移してきている。過去には、低いときは20%未満、高いときは50%超ということも1度ずつあり、3級に比べて2級の合格率は幅が大きい。合格率が極端に低くなったり、高くなったりするのは稀なことと考えてよい。

3. 近時の2級の本試験で合格率が低かった回の特徴としては、①初めての出題の問題があったこと、②初めてではないが、長い間出題がなく、受験生が手薄となっている知識が問われた問題がいくつかあったこと、③よく出題されている知識が問われているが、問われ方の形が初めてという問題があったことなどにある。

(3) 対策

1. 上述した初めて出題された問題などは、その数が多いわけではない。合格率の低かった回の本試験でも、頻出の問題部分を確実に得点できれば合格点には達するものであった。合格率が下がったのは、形式等にとまどい、頻出されている肢の正誤を自信をもって判断することができなくなってしまったことにあると考えられる。

従って、一番の対策は、頻出されている基礎知識を確実にマスターすることである。頻出されている肢の正誤を自信をもって判断することができれば、得点を確実に積み上げることができ、合格点に達することができる。細かな知識にとらわれすぎることなく、まずは頻出の基礎知識を充実させることこそが、合格への近道である。

2. また、ひっかけ問題や応用力を試す問題の対策として、答練などでの問題演習に力を入れることである。

3. 前述したように、これまでの2級本試験でも30%程度は3級の知識で対応できる問題が出題されている。ただ、近時の傾向として、以前は3級本試験でしか問われなかった問題が2級本試験でも問われることが多くなっている。2級対策としては、3級対策以上に、**3級・2級同時受験(連続受験)**を視野に入れて学習することが推奨される。